

# 「衣服ロス」について

## 新日本婦人の会武蔵野支部

かつての日本では、衣服は簡単に手に入るものではなく、衣服を大切に着て、破れればつぎをあて、ほころびをつくろい丁寧に着られなくなるまで着て、最後はぼろきれとして使うところまで、いわば使い尽くしていました。近年、衣服が豊富に出回るようになり、特に最近では、手軽に、流行も取り入れられる安い衣服が手に入りやすくなり、消費者にとっては助かる面もありますが、所有する衣服の数が増え、収納できずに家じゅうにあふれる家庭もでてきました。

私たちは、手に入りやすくなった衣服を楽しみつつ、不要になり、着なくなった衣服を人に譲ったり、リメイクしたり、リサイクル、バザーなどに出すなどの方法で処分し、それでも処分できないものは、最終的には捨てる（ごみに出す）という方法をとってきました。

コロナ禍のなか、人とのかわりも減って、バザーなどのリユースする機会が減り、これまでのように衣服の処分ができず、ゴミにしてしまうのはもったいないとは考えるものの、不要になった衣服はごみとして処分することになってしまい、自治体のごみ処理量を増やす結果になってしまっています。

今起きているこのような状況は「衣服ロス」とよばれ、消費の量をはるかに上回る量が生産され、消費される前にゴミとして処分されてしまうような状態をあらわしています。衣服は、貴重な原料を使い、布をつくり、染色し、裁断・縫製されつくられます。人の生活には欠かせないものですが、大量に作り、大量に廃棄する、こんな資源の無駄遣いは許されることではありません。

衣服が安く手に入り、消費を上回るほど、こんなにも大量に生産されるのは何故なのでしょう？ どういう仕組みでこうなるのでしょうか？

日本では流通している衣服98%が輸入品といわれています。これらの衣服が格安で販売される裏には、衣服の製造現場を支配する国際的なサプライチェーンが大きな力を持っていて、驚くほど劣悪な環境と低賃金で衣服が製造されているといわれています。

「衣服ロス」には、さまざまな環境破壊、水資源の無駄遣い、衣服製造に携わる人たちの劣悪な労働環境、低賃金問題など複雑で大きな問題が存在することがわかってきました。

## 「衣服ロス」が引き起こす環境問題は…

### 1. 地球温暖化

衣服製造産業が排出する二酸化炭素の量は、石油産業に続いて2位といわれています。世界全体の二酸化炭素排出量の8%以上がこの業界から排出されていて、地球温暖化に拍車をかけているといわれています。

### 2. 水不足

コットンを栽培するには大量の水が必要になります。Tシャツ1枚を作るのに約2700リットルの水が必要になると言われています。

### 3. マイクロプラスチック

衣服製造は水の汚染問題も引き起こします。ナイロンやポリエステルなどの化学繊維を洗濯すると、繊維のくずから「マイクロプラスチック」と呼ばれる細かなプラスチックが大量に発生します。また、生地染色の過程で汚染された水が水路や川にそのまま流され、水質汚染を引き起こします。

### 4. ファストファッションにより、衣服が手に入りやすくなり、消費が増え、その一方で製造された衣服の85%が毎年ごみとして処分されています。

## 「衣服ロス」の現状は

日本の「衣服ロス」の現状について、2020年12月～2021年3月にかけて環境省が「日本で消費される衣服と環境負荷に関する調査」を実施し、報告がされています。

—「環境省 サステナブルファッション」から—

ファッション産業は、製造にかかるエネルギー使用量やライフサイクルの短さなどから環境負荷が非常に大きい産業と指摘され、国際的な課題となっています。衣服の生産から着用、廃棄に至るまで環境負荷を考慮したサステナブル(持続可能)なファッションへの取り組みは、近年急速に広がっています。日本での取り組みはまだ限定的なのが現状で、サステナブルファッションへの取り組みを消費者、企業ともにやって行く必要があります。

◇海外で生まれ日本で消費される服の一生をみると

#### ・製造段階

原材料調達 紡績 染織 裁断・縫製 ⇒輸入 ⇒販売 利用 廃棄

(衣服はいろいろな素材が混合されて作られるので、沢山の資源が使われる)

▽原材料調達段階の環境負荷

\*天然繊維の環境負荷(コットンなど)…栽培時の水消費、化学肥料による  
土壌汚染など

\*合成繊維の環境負荷(ポリエステルなど)…石油資源の使用、工場でのCO<sub>2</sub>  
排出など

#### ・販売、利用段階

国内における供給量は増加する一方で、衣服 1 枚あたりの価格は安くなり、市場規模は下がっています。傾向として大量生産・大量消費が拡大しているともいえ、衣服のライフサイクルの短期化による大量廃棄への流れが懸念されま

す。

\*一人当たり（年間平均）の衣服消費・利用状況は

購入枚数＝約18枚

手放す服＝約12枚

着用されない服＝25枚

#### ・処分の方法は？

\*古着として販売……………11%

\*譲渡・寄付……………3%

\*地域・店頭での回収……………11%

\*資源回収……………7%

\*可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄…68%

・手放した服は、その7割近くが「処理に手間や労力・費用がかからない」との理由でごみとして廃棄され、処理されます。

衣服がゴミとして廃棄された場合、再資源化される割合は5%程度で、ほとんどがそのまま焼却・埋め立て処分されますが、その量は年間約48万トン。この数値を換算すると大型トラック約130台分を毎日焼却・埋め立てしていることになります。

リユース、リサイクルされる割合は、年々高まってはいますが、リユースには海外へ輸出される衣服も含まれていて、海外輸出は輸出先の国の現地産業に影響を与える懸念があるため、国内での更なるリユースの推進が必要です。

## 「衣服ロス」解決のために

「衣服ロス」解決のためには、企業と消費者がともに考え、行動することが必要です。

### ●企業がなすべきこと

「衣服ロス」が引き起こす環境問題を解決するために、環境負荷を下げる製造工程にしていく必要があります。また、原材料を購入する前の企画段階で、製品が廃棄されるという商品企画、生産計画の慣習を変えていく必要があります。

製造された衣服を販売した後に、衣服を回収し、リユースしたり、繊維原料にもどして再利用するというビジネスも出てきて、「服から服をつくる」循環型の企業へ切り替えようとする動きも出てきました。

## ●消費者がなすべきこと

「衣服ロス」を生み出しているのは一方では、私たち消費者であることを認識して、衣服は良いものを長く、大切に使うという意識に変えていく必要があります。衣服の大量購入、大量廃棄は、環境負荷を生むことも理解し、衣服を廃棄しない方法を考える必要があります。市民個人が開催するバザーやフリーマーケットで衣服の循環をはかるのも、一つ一つは小さな行動ですが、みんなの意識を高めるのに役立ちます。利用しやすく中古衣類をうまく循環させる仕組みを作るのも、「衣服ロス」の解決の一手段として役に立つのではないのでしょうか。

## 「衣服ロス」の背景を考える

衣服ロスを生み出す衣服の大量生産、大量廃棄の背景には、巨大衣料品ブランド企業の国際供給網（グローバル・サプライチェーン）の存在があります。“格安服”の生産地は、かつては中国でしたが、人件費の安い国へと拠点を移し、いまでは、ベトナムやバングラデシュで生産しています。

現地で働く縫製労働者は、驚くほどの低賃金、劣悪な環境で長時間の労働を強いられ、コロナ禍の中、受注が減れば、ただちに解雇されてしまうとの報告があります。

先進国の発注企業は、途上国の受注業者にコストの削減を、優越的な立場を利用して押し付け、安く大量に作れなければ発注しません。そのため、受注業者は無理な生産目標を労働者に課し、労働者は劣悪な条件で働かされることとなります。自社工場をもたず、生産を委託するだけの発注企業は、製造過程に直接の責任を負いません。そして、世界上位250社のアパレル企業（先進国の発注企業）の小売売上高は、19年に約5兆ドル（約550兆円）となっています。

私たちは、沢山の衣服が安く手に入り、ファッションを楽しんでいますが、衣服がこんな背景のもとで安く大量に作られていることを知る必要があります。

参考資料：環境省「サステナブルファッション」

「コロナ禍と資本主義」 しんぶん赤旗連載 2021・7・14～7・28